

運営内容について

1. 運営内容について

現行の基本構想を踏まえた、ボラセンについての運営内容案は以下のとおりである。

【運営内容案】

- ア 板橋区における自主的・自発的なボランティア・市民活動の推進施策を協議・検討
- イ いたばし総合ボランティアセンターを拠点とし、ボランティア及び市民活動の支援
- ウ 災害ボランティアのサポート

【現在の基本構想記載内容】



実際の運営に即した表現に変更

- ア 板橋区におけるボランティア・NPO（※1）の自主的・自発的活動の推進施策を協議・検討する機能
- イ NPOセンター（※2）を拠点とするボランティア及びNPO活動の支援機能
- ウ 災害時のサポート機能

※1 NPO は、民間の非営利組織のことで、環境や福祉、国際協力、人権問題などの社会的な課題に、市民が主体的に取り組んでいる組織をいう。

※2 NPOセンターとは、施策の推進拠点施設の仮称であり、現在のいたばし総合ボランティアセンターの施設（旧板橋第三小学校に設置）である。

なお、災害ボランティアセンターについては別途検討を行っている。

2. 運営方法について

（1）現状と課題

いたばし総合ボランティアセンターの現状と課題については、資料 2 - 6 で共有したところであり、現状と課題を簡単にまとめると、以下のとおりとなる。

【現状】

- ・個人や様々な団体からの相談・支援等のコーディネート、ボランティア等の人材育成等のほかに、中間支援組織としての協働・連携・ネットワーク化等の役割を担っている。

（NPO、コミュニティビジネス、企業 CSR 等の支援）

- ・社会情勢を鑑み、新型コロナウイルスや、SDGs 等の新たな課題に対する活動にも対応している。
- ・相談件数は年々増加し、令和 3 年度の相談実績は 4000 件を超えている。

【課題】

- ・地域課題を各主体と情報共有し、地域での活動につなげる連携や関係構築が不足している
- ・協働促進のためのルールや仕組みが曖昧である
- ・相談数は増加しているが、認知度は高くない。（令和 3 年度モニターアンケートより）
- ・活動場所に対する課題がある
- ・人材が不足している

社会（地域）課題の変容や、活動に対する相談件数が年々増加していることから、多様な地域課題を解決するために、新たな手法による運営方法を検討する。

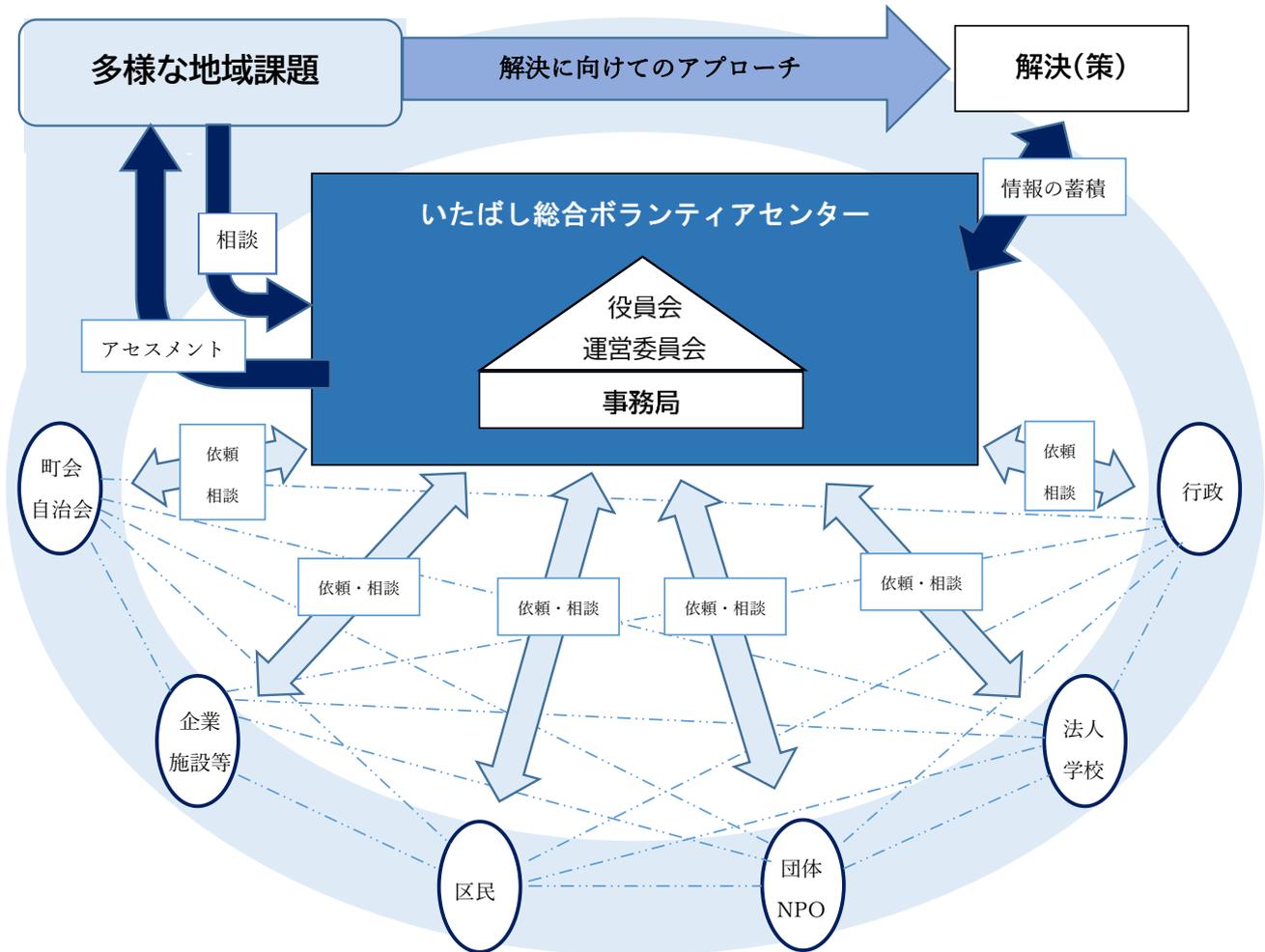
運営内容について

(2) 検討案

① プラットフォームについて

課題を踏まえ、ボランティア・市民活動を支援するため、プラットフォームの導入を検討していく。

【図1 現在の支援体制】



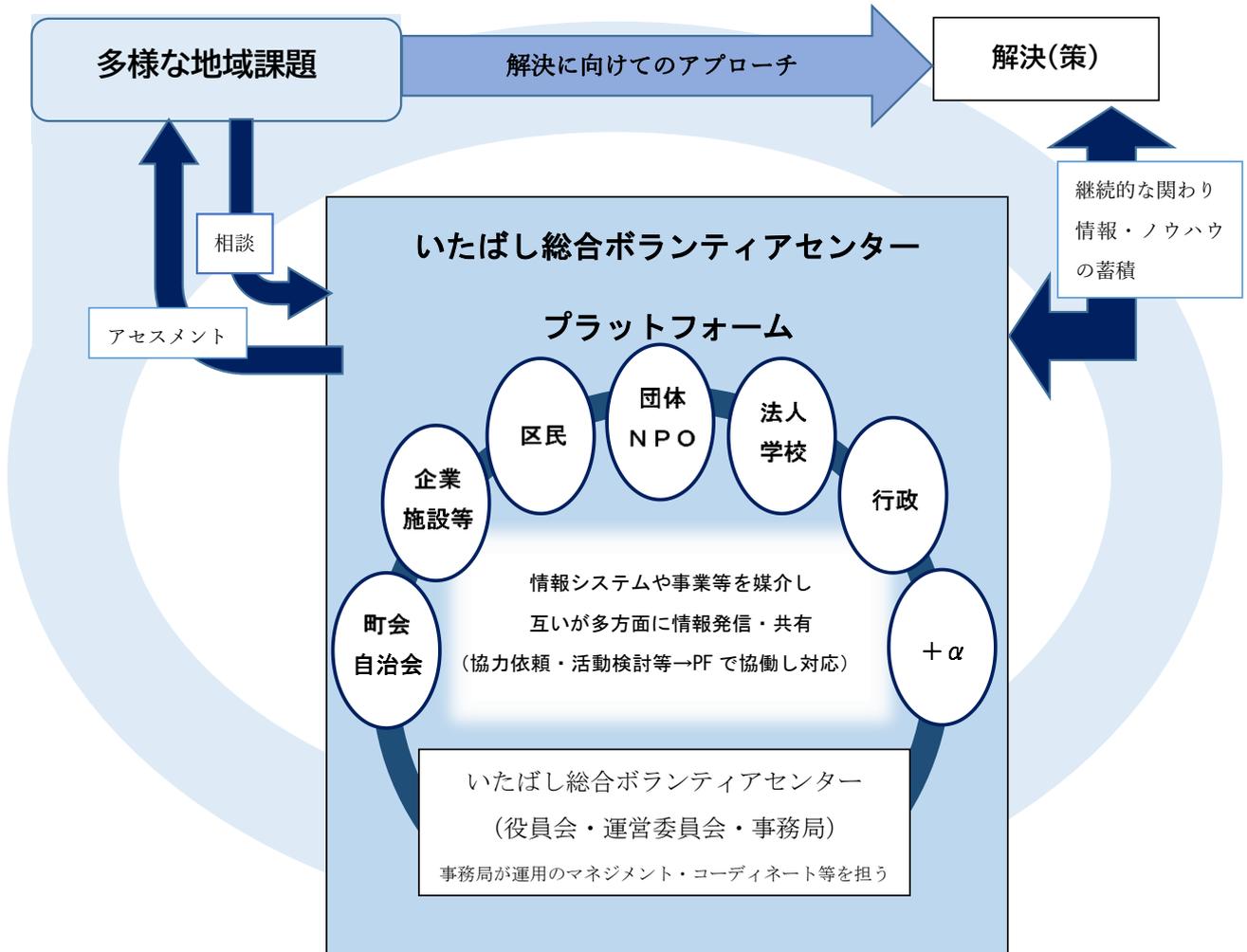
現在は、区内に点在する様々な要望や地域課題を、取りまとめる仕組みはなく、各主体が個々に対応しており、主体間の連携についてはボラセンが仲介するほか、各主体に委ねている部分も多い。

課題にあげたとおり、「情報共有、連携や関係構築が不足」しており、「ルールや仕組みが曖昧」である。そのため、プラットフォームを構築するための手法を整理・実行し、図2のようなプラットフォーム導入後の支援体制の構築を進めていく。

運営内容について

プラットフォーム導入のイメージは図2のとおりである。

【図2 プラットフォームの導入後の支援体制】



【プラットフォームについての手法案】

- ・ 情報システム構築・ホームページ等による情報共有等を利用し、会議体によらない関係づくり
- ・ コーディネート機能の強化および人材育成
- ・ プラットフォームに関するルール（条件）の整備

【プラットフォーム導入による効果】

- ・ 課題を共有することで、今まで関係性のなかった団体・企業・個人間で関係性を創出
- ・ ボラセンが情報・関係性を掌握することで、区内全域の活動に対応
- ・ 学校での教育支援人材（部活動・社会体験等）や町会・自治会等（防犯活動等）との連携
- ・ プラットフォームにより社会資源の協働を生み出すことで、センター事業の効率化
(ex.) センター事業で運営している事業の一部を、プラットフォームに属する団体の自主事業化

運営内容について

② その他の方法について

プラットフォームの導入だけでは解決できない課題を含め、ボランティア・市民活動の普及や充実につながる運営方法について検討する。

【課題】

- ・ボラセンの認知度は高くない（情報発信・周知・広報等）
- ・活動場所に対する課題（ランチ機能等）